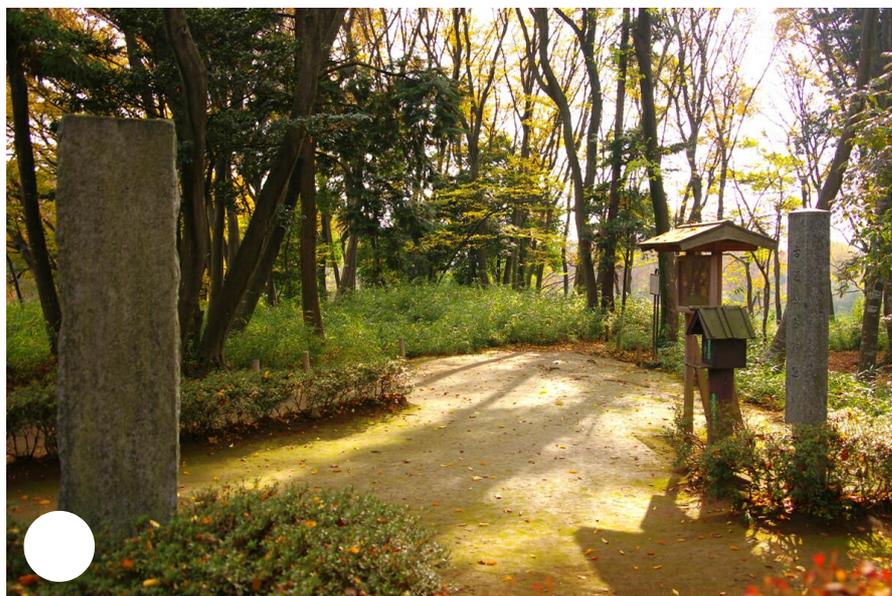


晩秋の公方様の森



中山台から始まった紅葉は、晩秋になると公方様の森を美しく彩ります。クヌギやコナラ、シデなどの落葉広葉樹林は、近代まで里山の雑木林でした。この森は、地域の住民の^{いりあいち}入会地^{たきぎ}として薪を供給し、その落ち葉は、畑の肥料となって住民の生活を支えて来ました。この豊かな自然環境を育む森は、古河の大切なふるさとの森です。



室町時代の後期に足利成氏^{しげうじ}が鎌倉から古河に移った出来事は、古河の歴史にとって、最も重要な出来事の一つです。幕府と対立した、成氏は、最初この公方様の森に居を構えました。現在その森には石碑^{いし}が立っています。なおその隣には、空堀跡^{くうほり}と言い伝えられる場所も残っています。古河に移り古河公方と称した、関東足利家は、その後、約130年5代に渡って関東の一大勢力となりました。そして最後の公方、義氏の娘、氏姫^{うじひめ}は、^{こうのすけしよ}鴻巣御所と呼ばれる、この森に最後まで住み続けたと言われています。また公園の中には、氏姫の菩提寺であった徳源院^{とくげんいん}という寺の跡が残されています。